

解散・総選挙となれば堂々と受けて立つ

国会は解散・総選挙をはらんだ緊迫した政治局面が生まれています。

共産党県議団は、郵政民営化法案が否決されたら、衆議院を解散するという小泉総理の理不尽なやり方は許せません。しかし、国会が解散されたら、堂々と受けて立ち、前回の選挙で失った木島日出夫さんの議席奪還のために全力をつくします。

今日の自民党の大混乱の根本には、郵政民営化法案への国民の批判の広がりだけでなく、外交でも、内政でも、自民党政治の路線がいよいよ大本からのゆきづまりがあります。今こそ自民党政治ときちんと対決できる野党・日本共産党が力を伸ばしてこそ、将来に希望が持てる新しい政治局面への道を開くことができます。

松本で乳児院訪問—藤沢県議 木島さんとともに

松本市にある赤十字乳児院には、育児困難や虐待を受けた子どもが収容されて、現在0歳から3歳未満の21人が暮らしています。職員は16人。3交代で365日24時間、子どもたちを育てています。

2日に訪問した木島さんや藤沢のり子県議は、「国と県から半額の措置費が出ているが、毎年減額されています。職員を増やすことや、老朽化した乳児院の耐震補強の検査費も厳しい財政の中では出せない状況です。」と福祉の現場の声を聞き、「子育ての環境が悪化している子どもたちに、しわ寄せがいかないよう国の施策を充実させるためにがんばります」と関係者を激励しました。

地域の足を守る交通対策を急げ

石坂ちは、毛利栄子県議は4日、「在来線を守る会長長野県連絡会」のみなさんや、信越線沿線の党議員と懇談しました。

同会は、長野新幹線開通の際にJRから分離された信越本線の軽井沢・横川間の鉄路復活、「住民や交通弱者の足」としての鉄道の存続・発展のために活動しています。

長野以北に北陸新幹線が開通すれば、信越線がJRから経営分離され、乗客数の減少、豪雪による除雪費用の増大などにより存続が危惧されていることから、今後の対策をどうするか懇談をしました。北陸信越比例ブロック事務所では、この課題で8月22日に金沢市で学習会を予定しています。